令和７年度　　研究計画

学校教育目標

自律　尊重　創造

～自他を尊重し、自律心と創造力を育む～

目指す生徒像

笑顔がいっぱい　やる気がいっぱい　根気がいっぱい　明日を創る生徒

本校生徒のよさと可能性

明るく素直な気質で、学校生活が楽しいと感じている生徒が多い。生徒会活動や行事などで目標に向かうときの集中力、団結力に優れている。反面、持続力や忍耐力を必要とする地道な活動等については、やや苦手とする傾向が見られる。

学習面においては、新たな知識を吸収しようとする好奇心が旺盛である。体験や他者と関わりながら学ぶことに楽しさを感じている生徒も比較的多い。反面、論理的に考え、それを的確に相手に伝えたり分かりやすく表現したりすること、自ら課題解決に取り組むことを苦手とする生徒が少なくない。また、諸調査の結果から、学力の定着について二極化が見られる状態になっている。基礎的・基本的事項の定着が不十分であることが原因と分析しているが、解決のためには、授業改善を基に共感的に学び合う集団の育成、学力向上の土台となる学び方の習得、質の高い学習習慣の形成が必要であると考える。

研究で目指す生徒の姿

- ○ 自己決定した目標に向け、見通しをもって計画的に粘り強く行動することができる生徒
- ○ 他者との立場や考え方の違いを理解し、尊重することができる生徒
- ○ 共通の目的のより良い実現に向けて他者と協働し、新たな価値を生み出そうとする生徒

研 究 主 題

「主体的に学び、共に深め合う生徒の育成」

～ 自らの考えを伝え合いながら、一人一人が学びを実感できる授業の創造 ～

1　研究主題について

これまでの研究、授業実践の積み重ねにより、生徒同士が学び合いを通して共に育つことを成果として確認することができた。そこで今年度は、学びの質を一層高めるために、学習過程の各段階をより丁寧に実践して、学びの好循環を生み出すことに注力することにした。

学びの好循環を生み出すには探究型授業の基本プロセスを機能させることが重要である。具体的には自分事として考えをもつことができる課題設定や自力思考と協働により考えを深める言語活動の場面設定、個々の学びの最適化に結び付く振り返りの場面設定などである。こうした探究型授業の各段階を充実させることで学びの好循環が発生し、生徒の学びにこれまで以上の主体性が生まれ、目指す生徒の姿の実現に結び付くと考えて本研究主題を設定した。

２　研究仮説

探究型授業の基本プロセスとして生徒一人一人が自分事として考えをもつことができる学習課題・めあてを設定し、解決の過程で根拠を示しながら考えを伝え合う場面を設定する。これにより、学びに広がりや深まりが発生し、新たな価値の創造に結び付くと考えられる。また、学びの過程で生じた生徒の努力やこだわりを適切に価値付けし、次の学びへと結び付ける。こうした学習過程におけるそれぞれの段階を丁寧に実践し、育みたい資質・能力を実現するための適切な手立てを授業に取り入れることで、生徒は学ぶ楽しさ、喜びを見出し、主体的に学びに取り組もうとする好循環が発生するであろう。

３　研究の重点

重点　「探究型授業の各段階の充実」	
〈共通実践事項〉	①前時の学びや振り返り、他教科等での学び、地域の素材を活用した、自分の考えをもつことができる　課題・めあての設定を行う。 ②自力思考と協働により考えを深める言語活動の場面の意図的・計画的な設定を行う。 ③学習の最適化に結び付く振り返りの工夫を行う。
実現のための基幹部分	
〈共通実践事項〉	・生徒指導の機能を生かした共感的学習集団づくり →「生徒指導の実践上の視点」を踏まえた授業づくりのためのチェックリストを活用する。 ・家庭学習の充実による言語活動の根拠となる基礎・基本の定着 →ノートによる家庭学習以外にも多様な取り組みを認め、生徒が自主的に内容や方法を決めて取り組めるようにするなど、学びの個別最適化を進める。 ・各教科で育成を目指す生徒の姿や状態の明確化 →各教科等で設定した研究主題や研究仮説内に目指す生徒の姿や状態を明記する。 ・目指す生徒の姿や状態を実現するための単元・題材構成の工夫 →構成の見直しや最適化を図り、資質・能力の確実な獲得を目指す。 ・探究型授業の各段階に応じたＩＣＴの活用 →資料「ＩＣＴの活用やポイント」を生かして、活用方法の一層の体系化を図る。

４　研究の方法

各教科等の特性を生かし、同僚性の構築を目指した授業実践を行う。

(1) 教科の枠を超えて互いの授業実践を見合い、学び合う。

① 研究の視点、各教科等の主題に則した授業実践を行う。

② 教科部会における相互協力で、主題に迫る授業研究や協議会を実施する。

(2) 共通実践「生徒指導の機能を生かした授業づくり」に即した指導を推進する。

(3) ＰＤＣＡサイクルを意識した研究を推進する。

５　研究の検証

ＰＤＣＡサイクルをベースに、授業で見取った生徒の姿や学習シート、振り返りカードとともに、毎月末に行う生徒用学習アンケートや諸調査・検査等の客観的なデータを精査し総合的に検証する。また、校内の授業研究会や互いの授業実践を見合って意見交換することにより「目指す子どもの姿」の実現状

況、共通実践事項の実施状況について確認し、そこから得られた成果と課題をその後の授業改善に役立てることができるよう務める。このため、授業研究会は年間を通してバランスよく実施する。

６　研究・研修計画

	校内研究・研修等	校外研修・Ａ講座・各種研修
４月	○今年度の研究について（生徒の学習状況の課題の把握、研究計画の作成、組織づくり） ○教科等部会・学年部会の実施 ○全国学力テストの実施	・仙北市教職員の集い ・仙教研春季研究会 ・初任者研修講座
５月	○学年・学級・各教科等経営案の作成 ○各教科等年間指導計画の作成	・安全管理指導者研修会 ・初任者研修講座 ・「確かな学力」向上推進協議会Ⅰ ・新任学年主任研修講座
６月	○学習アンケート開始（２月まで毎月末） ○Ｑ－Ｕテスト概要の理解と実施 ○基礎学力テストウィークの実施と分析	・初任者研修事務所研修Ⅰ ・中堅教諭等資質向上研修講座 ・新任学年主任研修講座 ・秋田県生徒指導推進会議 ・水泳指導スキルアップ研修
７月	○校内研究会①（美術・英語） ○教科等部会の実施（夏季休業中の課題等）	・初任者研修講座 ・初任者研修ＡＰ研修 ・教職５年目研修講座 ・仙教研大会 ・中堅教諭等資質向上研修講座 ・中堅教諭等資質向上研修事務所研修Ⅰ
８月	○各教科のＰＤＣＡの見直し ○通知表の記入等に関する研修	・初任者研修講座 ・教育課程研究協議会 （国語、数学、理科、音楽・保健体育 外国語、総合的な学習の時間） ・特別支援教育コーディネーター連絡協議会
９月	○校内研究会②(総合的な学習の時間)	・校種間連携研修 ・中堅教諭等資質向上研修講座
10月	○校内研究会③（児童生徒支援加配） ○Ｑ－Ｕテストの実施	・初任者研修講座 ・教職５年目研修講座 ・中堅教諭等資質向上研修講座 ・仙教研秋季研究会
11月	○教科ごとにＰＤＣＡの振り返り	・初任者研修講座 ・初任者研修事務所研修Ⅱ ・安全生活指導者研修会
12月	○学習状況調査の実施と採点 ○校内研究会④(数学)	・中堅教諭等資質向上研修事務所研修Ⅱ
１月	○学習状況調査の分析	・初任者研修講座 ・「確かな学力」向上推進協議会Ⅱ
２月	○今年度の研究のまとめ	
３月	○教科部会の実施（引継ぎ）	